

革新的な産業創出支援

岐阜市予算案

事業誘致で推進室

岐阜市の2024年度当初予算案

(23年度当初予算比)

| | | |
|------|-------------|------|
| 一般会計 | 1860億4000万円 | 3.4% |
| 特別会計 | 1322億6580万円 | 9.9% |
| 企業会計 | 581億8928万円 | 0.7% |
| 総額 | 3764億9508万円 | 5.1% |

※1万円未満切り捨て

主な事業(万円、▷は新規)

| | |
|----------------------|--------|
| ▷中小企業等DX研修補助金 | 48 |
| ▶ワークダイバーシティ推進事業 | 2214 |
| ▶観光地域づくり法人(DMO)との連携 | 8184 |
| ▷上川手土地区画整理事業(仮称)調査業務 | 1200 |
| ▶岐阜公園再整備事業 | 2億6120 |
| ▶柳ヶ瀬広場整備事業 | 3500 |
| ▶生活困窮者自立支援事業 | 1億1711 |
| ▷公用車の次世代自動車導入 | 2363 |
| ▷高機能消防指令センター更新整備事業 | 7億8530 |
| ▶親子のふれあい「絵本といっしょ」事業 | 109 |
| ▷児童館・児童センターリノベーション | 2775 |
| ▶ぎふ長良川花火大会 | 2000 |
| ▷これからの公共交通体感事業 | 250 |
| ▶休日の部活動地域移行推進 | 2344 |

市はこれまで、JR岐阜駅前の市リモートオフィス(ネオワーク岐阜)でのスタートアップ相談窓口開設や起業支援イベントなどに取り組んできた。23年度までの3年間で、ネオワ

ーク岐阜で相談を受けた52件が実際に創業に結びつくなどの成果を出してきた。しかし、市内の事業所や労働力は年々減少傾向にある、さらなる支援策で、新

たなビジネスモデルのノウハウを持つ企業による市内での事業展開を誘致したい考え。同推進室には職員4人を配置し、行政による支援体制について助言する外部の

【本文記事1面に】(小田香緒里)

岐阜市は2024年度、地域の経済活性化に力を入れる。革新的な産業創出のサポートを展開するため、経済部商工課内に4月に「スタートアップ推進室(仮称)」を新設し、名古屋市内に10月に開設される国内最大規模のスタートアップ支援拠点となるスタートアップ育成拠点「ステーションAi」との連携も図る。24年度一般会計当初予算案にスタートアップ創出事業として6496万円を盛り込んだ。



起業する人たちの相談を受けるスタートアップ相談窓口＝岐阜市高砂町、ネオワーク岐阜

アドバイザーも招く。ステーションAiでは、入居するスタートアップ企業と市の担当者が交流。実証実験の受け入れや市内大学とのマッチングなどについて相談を受け、市内での本格的な事業展開につなげてもらう。

柴橋正直市長は「事業所数は減少し、労働力不足は

25年度以降の事業へ準備

記者の目線

岐阜市の2024年度一般会計当初予算案は、25年度以降に展開する事業に向けた準備の年の様相が色濃く出た。25年度以降は、JR岐阜駅北側のツインタワー建設工事や岐阜ファミリパークの整備、岐阜薬科大の法人化移行などが控える。24年度はこれらの関連予算が目立った。

放課後児童クラブ増設も待ったなしだが、24年度は定員増がわずか30人で、決して十分とはいえない現状が浮かび上がった。子どもたちに施策の効果が届く日は来るのだろうか。

一方で、柴橋正直市長が重要政策の5本柱の1番に掲げる「こどもファースト」は、日々成長する子どもたちに向けたもので、準備と

は言っていない。乳幼児が絵本に触れる機会を増やす目的の事業は、23年度に引き続き盛り込まれた。柴橋市長は「あらゆる課題解決につながる」と太鼓判を押すが、この事業が効果を発揮するのは、保護者に読み聞かせをする子育て環境や心と時間の余裕があつてこそ。

(小田香緒里)